

鶴子銀山を紹介します

鶴子銀山は、天文11（1542）年に越後国の商人であった外山茂右衛門によって発見されたと伝わる島内でも古い歴史をもつ銀銅鉱山です。

天正17（1589）年、上杉景勝により銀山経営のための代官所が建設され、文禄4（1595）年には、当時の最先端技術であった「横相」と呼ばれる坑道掘りの技術が導入され、複数の鉱脈採掘と坑内排水を可能としました。

代官所の機能は慶長8（1603）年に相川に移転しましたが、銀山の経営はそれ以降も続き、昭和21（1946）年に閉山しました。鶴子銀山の繁栄は、多くの人や物を佐渡に呼び寄せ、相川金銀山が発見・発展するきっかけをつくったといえます。

現在は、江戸時代の絵図にも描かれた大滝間歩、大規模な露頭掘り跡が残る百枚平地区、代官屋敷跡などの遺構が残されています。



大滝間歩

佐渡金銀山ガイドナビ(ガイドアプリ)を利用しませんか？



佐渡金銀山の見所やアクセス方法など、詳しい情報を見ることができます。また、さまざまな名所の解説音声ガイダンスやAR（拡張現実）、スタンプラリー機能があり、現地で楽しめるアプリです。ぜひ登録してみてはいかがでしょうか。

8月30日(日)まで夏休み特別企画としてアプリで、8個のスタンプを獲得した方、先着200名様に佐渡金銀山グッズをプレゼントします。アプリに関して詳しくは「きらりうむ佐渡」にお問い合わせください。

☎きらりうむ佐渡 ☎74-2215

世界文化遺産国内推薦が見送りとなりました

文化庁は6月29日に、今年度の文化審議会では世界遺産国内推薦候補の選定に向けた諮問は行わないと発表しました。新型コロナウイルスの影響から文化審議会における審議や準備の時間を十分に確保できないとの判断ではありますが、誠に残念な結果になりました。

佐渡金銀山は前回の文化審議会において「次の有力な候補」であることが確認されていますので、一刻も早い世界遺産登録に向けて、なお一層の取り組みを進めてまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願いします。